

日本語の文章における“たび”「度」の用法分析

エディタ.クリスタサリ

1042010



日本文学科

文学科学部

マラナタキリスト大学

バンドン

2014

## 1. 序論

品詞分類によると「度（たび）」という語は名詞である。しかし、その単語だけ独立して使われることはできない。度はいろいろな意味を持つ。それは‘とき、おり、度数、回数を数える語’

（日本語大辞典 1989：1212）である。この研究の目的は日本語の文章におけるたび「度」の使用と意味を理解するためである。たび「度」の意味は文章に応じて変化する。

この研究は益岡隆志の数量名詞と形式名詞（1999：33－36）の理論を使っている。名詞のうち数量を表す名詞を「数量名詞」と呼ぶ。名詞の性質をもちながら意味的に希薄で修飾要素なしでは使えない名詞を「形式名詞」と呼ぶ。数量名詞には単独で数量を表すものと、「数の名詞+助数詞」や「指示詞+「ほど」、

「ぐらい」」等のように、接尾辞や接尾辞的な語と組み合わせて初めて、数量名詞になるものがある。助数詞には「本、冊、枚」のように、数える対象の種類によって使い分けられる類別辞と、数に付いて、量、回数、時間等の様々な単位を表すもの〔単位辞〕とがある。たび「度」は回数・倍数を表す助数詞である。形式名詞として、たび「度」は、何度かおこる、あるいは繰り返して起こることからのそのときどきをさし、回数の多さや、回数を重ねることを表す（正義1994：420）。形式名詞として、文の構造は二つある。動詞とくっつけば、構造は「Vる+たび（に）」で、名詞と付けば「N+の+たび（に）」となる（友松2008：133）。副

詞は動詞や形容詞を修飾することを本務とする品詞である（功雄 2001：378）。益岡（1999：41－45）は副詞を四種類に分ける。その一つは事態が起こる時間や事態の発生・展開のありかたを表す副詞を、「テンス・アスペクトの副詞」と呼ぶ。アスペクトの副詞のなかには、自体が起こる頻度を表すものもある。「いつも、たいてい、よく、しばしば、たびたび、ときに、ときどき、たまに」等がある。

## 1. 本論

### 2.1 たび「度」は助数詞として

例文：

1. 白はたちまち左の肩をぽかりとバットに打たれました。思うと二度目のバットも頭の上へ飛んで来ます。(AK 2005: 182)

その例文1に「度（たび）」は助数詞として“二”の数詞に付く。この例文の意味は何回白がバットに打たれたのを説明する。白は二回バットに打たれた。

2. 予想最高気温は札幌、名古屋、大阪、広島、福岡は全部同じ12度。(MS@tenkijp)

その例文2に「度（たび）」は助数詞として“12”の数詞に付く。この例文2の意味はどの程度・度数まで最高気温の予想を説明する。予想最高気温は12度までである。

## 2.2 たび「度」は形式名詞として

例文：

3. 君は会うたびに美しくなる。(MS, @hx3exbk8)
4. 大きな台風や集中豪雨のたびに、数千戸の住宅が浸水被害にあってきた。(NP 23, 2002:17)

例文3に「度（たび）」は形式名詞として‘会う’という動詞に付くので「V る+ たび（に）」の文構造を使っている。だが、例文4に「度（たび）」は形式名詞として‘豪雨’という名詞に付くので、「N+の+たび（に）」の文構造を使っている。例文3と例文4の意味は繰り返して起こることを表す。

例文：

5. このたびは渋谷に新社屋を落成されましたとのことは、誠にありがとうございます(NJ 3, 1993:72)

例文5に「度（たび）」は形式名詞として‘この’という指示詞に付く。この例文の意味は繰り返すことではなく、おりが起こることを表す。「今回」と同じ言う意味である。

## 2.3 たび「度」は副詞として

例文：

6. ロックというのはクラバックと**たびたび**比べられる音楽家  
です。(AK 2005: 56)
7. **たびたび**すみません。美央ちゃんの振り袖って求めていますか？(MS, @hair\_kame38)

例文6に「度（たび）」は副詞として‘たびたび／度々’と呼ばれる。この副詞は文の中にどこで置いても問題がない。この例文6のように、‘たびたび’は人の状況語と述語の間にある。この文例の意味は何度も繰り返す様子を表す。特に文例7は誰かにいつも迷惑をかけて、たびたびすみませんを言う。

### 3. 結論

日本語文章の中でたび「度」の使用は三つに分類することができる。それは助数詞と形式名詞と副詞である。意味も分類によっていろいろある。助数詞として、たび「度」は数詞に付いて、回数と度数の意味を持っている。形式名詞として、繰り返して起こることを表し、折りの意味も用いる。そして、従節と主節を接続することである。副詞として、同じ事が繰り返す意味を用いる。このたびたびと言う副詞はどこに置いてもよい。

# DAFTAR ISI

**HALAMAN JUDUL**

**HALAMAN PENGESAHAN**

**HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS**

**PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI**

**KATA PENGANTAR.....i**

**DAFTAR ISI.....iii**

**BAB I PENDAHULUAN.....1**

1.1 Latar Belakang Masalah.....1

1.2 Rumusan Masalah.....6

1.3 Tujuan Penelitian.....6

1.4 Metode dan teknik Penelitian.....7

1.5 Organisasi Penulisan.....8

**BAB II KAJIAN TEORI.....10**

2.1 Semantik.....10

2.1.1 Makna Leksikal.....10

2.1.2 Makna Gramatikal.....11

2.2 Sintaksis.....11

2.2.1 Kalimat.....14

(Lanjutan)

2.2.2	品詞分類 <i>Hinshibunrui</i> .....	15
2.3	たび「度」 .....	16
2.3.1	度 <i>Tabi</i> sebagai 助数詞 <i>josuushi</i> .....	18
2.3.2	度 <i>Tabi</i> sebagai 形式名詞 <i>keishikimeishi</i> .....	19
2.3.3	度 <i>Tabi</i> sebagai 副詞 <i>fukushi</i> .....	21
<b>BAB III ANALISIS DATA</b> .....		23
3.1	度 <i>Tabi</i> sebagai 助数詞 <i>josuushi</i> .....	24
3.2	度 <i>Tabi</i> sebagai 形式名詞 <i>keishikimeishi</i> .....	32
3.3	度 <i>Tabi</i> sebagai 副詞 <i>fukushi</i> .....	41
<b>BAB IV KESIMPULAN</b> .....		52
<b>DAFTAR PUSTAKA</b> .....		56
<b>LAMPIRAN DATA</b>		
<b>SINOPSIS</b>		
<b>RIWAYAT HIDUP PENULIS</b>		